

まちづくり懇談会内容【公開用】

日 時：令和 2 年 11 月 9 日（月）14：00～15：32

場 所：北学田自治会館

出席者：14 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. これからのまちづくり（資料 1 参照）

- ・栗山赤十字病院の改築について

4. 懇談

5. その他（情報提供）

（1）光回線の全面開通について

（2）栗山高等学校と介護福祉学校の状況について

（3）新型コロナウイルス感染症対策について（資料 2 参照）

- ・町民の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料 2－1 参照）

- ・事業者の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料 2－2 参照）

- ・新型コロナウイルス感染症の影響に伴う国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（資料 2－3 参照）

（4）空き家の情報提供について

6. 閉会

《懇談内容》

【栗山赤十字病院の改築について】

町民：過疎債という言葉が聞きなれない。手出しがないということで、お金を借りるということか。

町長：47 億円を国から借りる借入金のことが過疎債。30 年間に渡って返済するが、7 割が国からの交付税として入ってくる。残り 3 割を栗山赤十字病院が返済するということになる。

町民：私はあまり病院に行かないのでわからないが、栗山赤十字病院はコロナに対応する病院ではないので、今後どのように栗山赤十字病院がコロナなどに対応をしていくのか。

町長：感染症法で定める指定医療機関に栗山赤十字病院はなっていないので、コロナ関連の診療はできない。岩見沢市立病院は指定病院になっている。

日赤改築室長：栗山赤十字病院に発熱外来ができた。病院の横にプレハブが建てられている。発

熱や味覚症状などの症状があるなど、コロナが疑われるときは、栗山赤十字病院へ電話をしていただいて予約をし、受診していただくことになる。検査が必要であれば、抗原検査を受けることができる。

日赤改築室長：PCR 検査は検体を札幌に送って検査する。抗原検査は栗山赤十字病院で検査ができる。発熱などの症状が出た場合、まずは電話で連絡いただきたい。検査の結果、陽性となった場合は、栗山赤十字病院から連絡があり、岩見沢市立病院への入院となる。もしベッドが満床であれば、札幌市内のホテルでの療養となることもある。個人的に検査を受ける場合は、65 歳以上であれば、国や町から検査費用の補助が受けられる。電話での予約になる。

町長：指定医療機関で対応できないことになってくれば、協力医療機関として栗山赤十字病院でも対応することもある。

町民：今回、町が病院を建て替えるのであれば、近隣の長沼、南幌、由仁、夕張の病院においては、栗山が建て直すことによって、私たちは栗山に任せればいいという感覚でいるのか。それであれば、バスなど交通の便などはどのように考えているのかを教えてください。

町長：近隣市町とそれぞれの病院の考え方について確認をしている。夕張は診療所にして新しい病院の整備を進めている。由仁は、今から 3 年前に病院から診療所として整備している。南幌は今まで栗山と同じように一般病床と療養病床にしていたが、ベッド数を 60 床に減らして、すべて地域包括ケア病床に変えて、手術などは江別などの近隣の大きな病院と連携を取ることで考えている。長沼については、栗山と同じく建物が古いので、これから病院改築に向けた議論を進めていくといった状況で、長沼で建て替えることで考えている。このような状況なので病院の拠点化ということで考えるとそれぞれの町の状況を考えると困難と判断して、栗山赤十字病院の建て替えに踏み切った。それぞれの町から通ってきている患者さんの交通の便をどうするかを考えることは、町で考えることは今の段階ではない。

町長：栗山赤十字病院の入院患者、外来患者さんの 75% ぐらいは町民となっている。

町民：外来はどうか。

町長：外来患者は 80%、入院は 65% になる。ほとんど町民になる。あと多いのが夕張と由仁。この 3 つで 90% になる。これからもこのような状況が続くと思う。他から栗山に来ている市や町に対して出資金を出してほしいとはいえない。栗山からも別な町の病院に行っているので、それはお互いさまということになると思う。今の仕組みは変わらないので、このような中で交通の利便性をどうしていくかの問題は残るが、そのような形で考えていく。ただ、長沼の民間病院では、バスを出して栗山の町民が通っているという状況もある。他の会場でも、もし栗山赤十字病院が新しくなれば、町外の方からも足を向けてもらえる経営努力が必要ではないかという意見も出ている。

町長：他の会場でよく出ている内容として、診療科の問題がある。整形外科が週 4 回で午後の診療はしていない。できれば午後も診療してほしいという意見。また、眼科、皮膚科、泌尿器科などは、週 1 日、その日を逃すと 2 週間診察できないので、最低でも週 2 日にしてもらえないかという意見。また、小児科の問題などもある。また、総合受付と診療室までの距離が遠いので、近くしてほしいという意見も出ている。すべてを実現するのは難しいが、議論のテーブルに乗せて協議していきたいと考えている。

町民：資料には深刻な医師不足ということが書かれているが、建て替えで同じ診療科となると医師は足りるのか。

町長：深刻な医師不足と記載したのは、北海道大学の医局とのパイプがあるので、何とか医師は確保できている。ただ、午後診療や週 1 日にするとすると医師は足りなくなる。せっかく新しくなるので、医師の確保と診療の拡充を図りたいと考えている。

町民：医師を増やせば町の手出しが増えるのではないかな。

町長：今、年間で約 1 億円を町から栗山赤十字病院へ補助している。内訳は救急告示病院と不採算診療としての負担になる。ただ、公的な病院として指定されているので国から補助は 8000 万円が補助されるので、実際に町が出しているのは 2000 万円。言い換えれば、町が 1 億円を出さないと 8000 万円が補助されないことになる。改築後の病院経営などを考えると、町の実案は 12 の診療科目の維持だが、診療科を減らしてはどうかという意見も出ている。

町長：建設場所のことで、移転建て替えの場合、解体費 6 億円の借入金が出ない。しかし、いろいろな可能性を考えていきたい。国には移転建て替えであっても、借入金の対象になるように要望しているが、難しい。

町長：移転するのであれば、候補地として栗山駅周辺や、角田地区、栗山由仁線の栗山町農産物検査場付近など、いろいろな意見がある。現地での建て替えだと、建物南側に 7200 m²の建築が可能な土地があるので、建設後に、既存の病院から引っ越しして、解体する。病院は休まないで建て替える。また、病院の前にある 3 つの薬局を敷地内に移設できないかといった意見もあるが、いろいろな制度の問題がある。

日赤改築室長：薬の処方（医師）と調剤（薬剤師）の業務を分散し、敷地から離れた場所にするような制度となっている。全国で 7 割が敷地外になった。ただ、薬局へ行くのに道路を横断するのは危険などの意見もあり、平成 28 年に規制緩和で敷地内での建築が可能になった。ただ、現状の 3 つの薬局を敷地内に入れるとなると、駐車場などが狭くなるなどの問題もある。

《質疑応答》

【その他（情報提供）】

町民：農業に関する展望などを聞かせてほしい。

町長：農業で一番大事なのは、基盤整備と考えている。継立地区と南角田地区の整備が終わる。北学田や御園、円山などが 4 地区で 150 億円になるため、ペースを上げて行っていきたいと考えているが、地域での推進体制を南部耕地出張所などとも連携してしっかり整備していく。今の基盤整備は ICT など、いろいろ変わりつつある。農業ルネッサンスとして、さらに先を見ていくと農業人口の減少などから農地の活用など先ほどにも話が合った ICT の活用が必要になってくる。そのような農業の将来的な展望がある。

町長：介護福祉学校で、町から 8000 万円を負担している。介護福祉士の人材確保は、国の問題でもある。ここ 10 年間で介護福祉士の養成校が減っており、厳しい状況になっている。これ以上減らさないようにしてほしいという要請をしているが、なかなか話が進んでいかない。これからも継続してやっていく。先日、武田総務大臣が訪問した際に、「なぜ、町の税金を使って経営をしているのか」という質問をいただいた。その後、大臣から電話があって「道立の学校にしてはどうか」という意見をいただいた。国の大臣からの前向きな意見にうれしく思った。また、来週上京するので、大臣と話をしたいと思う。

町長：稲津議員の懇談会があり、今後のコロナの対応として、農林水産省としても、農業者への支援についてこれから検討をしていくといった話があった。

15：32 終了